ぶどうの樹（き）サポーターズ通信

Vol.5
2020 Autumn & Winter
発　行
同志社女子大学募金事務局
（総務部総務課社会連携係内）

このニューズレターは、ぶどうの樹サポーターズ会員（寄付をいただいた方）を対象とする会報誌です。
年２回、本学の取組みや学生の活動、募金に関する情報等についてお知らせいたします。

今出川キャンパス・ジェームズ館教室

CONTENTS

02　「With コロナ」時代の本学の取り組み
03　VOICE［教員インタビュー］
　　これからの社会の在り方を考える
04　ぶどうの樹 TOPICS
05　募金事業実績のご報告
06　ぶどうの樹コラム

「With コロナ」時代の本学の取り組み

本学では秋学期より対面授業を再開し、キャンパスは学生の賑やかな声が聞かれるようになりました。いまだ制約の多い状況ではありますが、学生が安心してキャンパスライフをおくれるよう感染防止対策を励行し、「With コロナ」の状況における社会環境の変化に対応しながら、充実した教育研究環境を提供していけるよう取り組んでまいります。

美しい行いをする人になろう ～「Be Handsome」キャンペーン～

かつて創立者である新島襄は、妻八重を「美しい行いをする人」として評しました(※)。
学生一人ひとりが「新しい生活様式」を積極的に取り入れ、様々な感染防止対策を実践していくこと、またそのような意識を高くもって行動することを「美しい行い」と位置づけ、このキャンペーンを開始しました。

▶ハンドブックを全学生に配布

大学生活における感染防止のための基礎知識に加え、通学時、アルバイト時、飲食時など、様々なシーンに対応した感染防止策を示し、感染が疑われる場合の相談方法等も案内しています。

▶感染防止グッズを全学生に配布

消毒ジェル／除菌シート

▶学生向け啓発活動

啓発ポスターを学内各所に掲示／啓発動画の作成（予定）

消毒ジェル

啓発ポスター

（※）She is not handsome at all, but what I know of her is that She is person who does handsome.
“彼女は決して美人ではありません。しかし、私が彼女について知っているのは、美しい行いをする人（ハンサム・ウーマン）だということです。“
【新島襄からハーディー宛ての手紙　1875 年 11 月 23 日より】

学生生活をゆたかなものに ～１年次生への取り組み～

今年度は入学式を中止し、春学期は遠隔授業を実施したため、１年次生は春学期のキャンパスライフを経験できず、新たな友人と交流する機会もありませんでした。彼女達の新しい学生生活がゆたかなものになることを願い、以下の取り組みを行っています。

入学記念の会

▶新入生と上級生によるオンライン交流会【春学期】

上級生が積極的に参加し、大学や課外活動の紹介に加え、女子学生ならではの多様なテーマに話が弾みました。参加学生のべ 330 名。

テーマの一例：
同女あるある、下宿＆自宅生、アルバイト、課外活動、趣味、おすすめ観光地、学校行事、筋トレ、自炊、ファッション、プチプラ、ダイエット、アニメ、メイク、あつまれどうぶつの森

▶入学記念の会【９月下旬】

秋学期授業開始を前に、１年次生に安心して対面授業に臨んでもらうため学科ごとに実施しました。小﨑宗教部長の聖書朗読、祈祷に続いて、飯田学長からのお祝いの言葉、各学科の紹介などがありました。

▶新入生交流企画 DWCLA Pray & Hike in 2020 autumn【10 月 28 日】

今出川キャンパスを出発し、新島旧邸や哲学の道を経由し、若王子山頂の同志社墓地(※)をめざすハイキングです。到着後は春学期のオリエンテーションで実施できなかった墓前礼拝を行いました。先輩らの案内のもと、本学のルーツをたどり、新入生同士がつながるきっかけづくりとしました。

（※）創立者新島襄をはじめ、妻八重や同志社関係者の眠る墓地

学生生活の継続を支援

コロナ禍の社会状況の影響で学生生活や学業に支障が出ることのないよう、様々な緊急対応措置を講じてまいりました。

継続中	特別奨学金の支給	感染症の影響により家計が急変した学生を対象に、学期の授業料の２分の１を限度として支給。
継続中	生活支援金の支給	アルバイト等の収入が減少し、経済的に困窮した学生を対象に一人あたり５万円を支給。
継続中	学費納入の猶予	学費納入時期の延納、分納対応。
継続中	短期貸付金制度の拡充	緊急の必要に迫られた学生を対象に貸与。従来の一人あたり３万円を 10 万円に、貸付期間を最長３か月から６か月に拡充。
春学期のみ	ノート PC、Wi-Fi ルータの無償貸与	遠隔授業を受講するために必要な学習環境を提供。秋学期は学内での貸出のみ。
春学期のみ	ネットプリントサービスの提供	自宅や下宿から文書をアップロードし、コンビニで印刷できるサービス。費用は大学が負担。
春学期のみ	図書・複写物郵送貸出サービス	本学図書館の図書資料を郵送で取り寄せることができるサービス。

※本稿に記載の情報は 2020 年 10 月下旬のものです。最新の情報は本学 Web サイトにて随時お知らせしております。

VOICE ［教員インタビュー］
これからの社会の在り方を考える

現代社会学部社会システム学科　長岡 延孝 教授

新型コロナウイルスの影響により社会環境は一変し、私たちの生活は今後、否応なしに with コロナ、after コロナへの対応が迫られています。また、社会のデジタル化、地球環境の変化もめまぐるしいスピードで進んでいます。これからの社会はどうなっていくのでしょうか。経済・環境分野が専門の現代社会学部・長岡教授に伺いました。

感染拡大が世の中に与えた影響は？

今回の新型ウイルスによって、期せずして多くの人がICTツールを使う必要に迫られました。見方を変えれば、デジタル・トランスフォーメーションに向けた良い機会であったともいえます。

教育現場で言いますと、本学では春学期の授業が原則オンラインになり、学生・教員ともにWEB会議ツールを手段にして取り組むようになりました。当初はPC・通信環境の整備やツールの不慣れなどの課題がありましたが、一定軌道にのってくると効率的に進めていける部分も出てきました。

他方で、キャンパスでの対面授業だからこそ得られる優れた面があることも、私たちは再認識できたわけです。今後は例えば、単なる知識や情報の伝達であればオンラインで、ディスカッションは対面でというように、すみ分けが進んでいくかもしれません。

世界のデジタル社会への対応は？

コロナ禍では、厳格なロックダウンを強行した国もあれば、基本的な日常生活を維持した国もあり、対応が国によって異なるのは興味深いことでした。なかでも一定のプライバシーを犠牲にしてでも、ITを使って接触リスクを避けた韓国や台湾では、元々市民にITを受け入れる土壌がありました。

私が専門とする北欧でも、情報通信を産業の中心に据えてきたという背景もあり、既にITが生活に浸透しています。エストニアでは電子政府が確立しており、全ての申請書類が電子化されています。また興味深い例として、スウェーデンの大手新聞社では、日本同様、紙媒体の発行部数は減っていますが、電子版では大きな利益をあげています。大切な情報を得るためには、一般市民が電子媒体にお金を払うことにさほど抵抗がないのでしょう。

日本でもデジタル庁設置の構想がありますが、やはり相対的な遅れは否めません。コロナ後の社会を見据えても、この分野の強化は急務ですし、効率化によってワーク・ライフ・バランスを実現することもできるでしょう。

新型ウイルスと地球環境の関係は？

新型コロナや過去のSARS、MERSは、そもそも人間が開発のために自然環境の中に入り込みすぎてしまったことが根本的な原因である、と指摘されています。その結果、野生動物から人間世界に新しいウイルスが持ち込まれてしまいました。また、温暖化によって氷山が溶けると、太古から地表に眠るウイルスが出てくるのではないか、と生物学者は警告を発しています。今のままでは次なるウイルスがいつ発生しても不思議ではない状況なのです。

いま世界では、2030年を目途としたSDGs(※)の実現に向けて様々な活動がなされています。しかし、コロナ禍による経済的社会的影響をうけ、SDGsの実現にとって厳しい状況が現れてきています。世界全体を見渡すと、貧困層が増加し、格差も大きくなりつつあるのが現状なのです。

このことからも分かるように、地球上の様々な問題は「二重らせん」のように複雑に絡み合っており、切り離して考えることはできません。人類の努力目標であるSDGsについて、国や企業だけではなく、私たち一人ひとりが自分事として捉え、取り組んでいくことが重要だと思います。

（※）SDGs…「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年の国連総会で加盟193か国すべてが合意した目標。『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』に基づき、人類の貧困と飢餓に終止符を打つこと、気候変動への緊急対策を講じること、すべての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進することなど17項目の目標を2030年までに達成すべく、世界中で取り組みが進んでいる。

これから私たちはどうしていくべきか？

世の中のデジタル化で私たちの生活は一層効率化、合理化が進むでしょう。これは間違いない流れだと思います。だからこそ、特に将来のある学生には、人間にしかないクリエイティビティー、ヒューマニティーを磨いていってもらいたいですね。また、情報が溢れる現代ですので、フェイクニュースに惑わされないためにも、様々な問題について自ら調べ正しく理解すること、その手間を厭わないでほしい。そうして、時代の変化に柔軟に対応できる力を養っていただきたいものです。

コロナ後の社会の予測は不確実で難しいのですが、これまでもそうであったように、人間は新しい環境に対応していくものだと信じています。そのためには、これまでに世界が築きあげてきた法の支配や人権の尊重という知恵や社会秩序を土台にし、未来世代に思いを馳せながら、「誰も取り残さない」というスローガンを掲げたSDGsを実践していくことが大切だと考えています。